

それから10回以上通い、最後は11月下旬の寒い朝、関係者総出で4つの沼の水をポンプで抜きながら捕獲。8月からの合計は、ホトケドジョウ227(匹)、普通のドジョウ169でした。県のRDB掲載種としては、オオコオイムシ414、ガムシ15、タイコウチ1、数匹のツチガエル。その他、ヤンマ類のヤゴやミズカマキリ、ヒメゲンゴロウなどを相当数、彼らの望まぬ環境に移しました。

地下水位はわずか10cm。ポンプで水を抜いてもみるみる水が湧き、まもなく水位は元通り。この全域から地下水を排水し続けるなんてできるのでしょうか？ 科学技術に奢っては、自然の力に到底及ばなかったという経験を、たくさんしてきたはずでは……？

## どこに逃す？

捕獲と並行して、ホトケドジョウの放逐適地も探しました。当時、私の頭の中で議論していた3人の意見を書いてみます。

**A君**「そもそも、いろんなものが共生している中から指定種だけを選んで、しかも域外に移植して、保全したつもりになるのはナンセンスだよ」

**B君**「そうそう。放した場所の先住者に、どんな迷惑がかかるかわからない。開発地にいた個体さえ救えばってというのは、個体愛護みたいだよ」

**C君**「しかも、逃したあと、どうなるか見届けられないでしょ？ あとはどうなっても知らん顔だから、無責任だよ」

**A君**「さて、そうは言っても、むざむざ土に埋まるのも見てられないから、助けちゃったけどさ、どうする？」

**B君**「馬取は泥川水系だけど、泥川も発地川も結局みんな湯川水系だから、遺伝子攪乱を心配する必要はないよね」

**C君**「うん、本流に流れ下ったり、また遡ったりしているはずだから、遺伝的交流はあるとみていいと思う」



ポンプで排水しながらの最終戦



a) オオコオイムシ b) ガムシ c) タイコウチ (以上、県準絶滅危惧) d) ツチガエル (県絶滅危惧II類) 水生昆虫は広域を飛び回って生活しており、秋に越冬場所を求めて沼に集まってきた。ツチガエルは、2022年に別種記載されたムカシツチガエルの可能性が高い。

**B君**「発地の東に何本か、草に埋もれた、自然護岸の小川があるよね。生息地の看板が立ってるとこ」

**C君**「ああ、東の丘陵からの湧水が何本かあるけど、そういうところには大抵いるね」

**A君**「考え方としてさ、この際、そういう原生自然には逃さないっていうルールにしない？ 二



本来の生息環境（湯川の氾濫原）。  
草むらに埋もれた細流に、ホトケ  
ドジョウがふつうに生息する  
（黄色の線）

次的な自然環境で候補地を探そうよ」

**C君**「賛成。自然度の高いところに手を加えて、あとで何か起こったとき、『あのとき放したのがまずかったんじゃない?』と思っても、取り返しがつかないし、確かめることすらできないからね。あとで起こることを予測できるほど科学は進んでないんだから、滅多なことはしない方がいいよ」

**A君**「それぞれの場所で、適正な密度に落ち着いてるんだからね。一時的に過密にして、先住者が追い出される可能性だってあるし、健全な集団に病気を持ち込む可能性だって、ないわけじゃないし」

**B君**「じゃあ、ホタルの水路は? あそこはドジョウもホトケもいたよね。コンクリート護岸だけど、数十年のあいだに泥がたまって草も生えて、人工的に造ったU字溝に、後から魚が入ってきた場所だよ。広くて魚が分散できるし」

**C君**「発地川にも流下できるよ。出入り自由なのがいいよね」

**B君**「たくさん捕れたらどうする? 行政は八風湖なんかも勧めてるけど」

**A君**「ホトケは池の魚じゃないよ。それに、カイツブリやブラックバスがいそうなどこには放せないな」

**C君**「茂沢に広い河原があるよね。湯川の氾

濫原にできた、草に埋もれた細流や、本流に近い分流にもホトケがいたはずだよ」

**A君**「そうしようか……土砂で埋め立てられたり、19号台風で川が暴れたりしても生き残ってる……そういう攪乱地もホトケ本来の生息地だし、攪乱地なら二次自然とも言えるし」

## おわりに

私の脳内会議は、実際には4ヵ月もかかり、やっと3人の意見をまとめて腑に落とすことができました。捕獲されたホトケドジョウは、その約半数を何回かに分けてホタルの水路へ。あとは、発地の農耕地に新しく見つけた生息地（小さなU字溝）と、茂沢の氾濫原に、少しずつ分けて放流しました。

それぞれの場所で増えたように見えるのも一時的なこと。きっと早晩、元通りの密度でしか見つからなくなるでしょう。それがその場所の適正な密度なのなら。

多いこと、増えたことがよいと思うのは、私たちが陥りやすい勘違いです。どのようなプロセスで、元通りの密度に落ち着いていくのか、誰も知る由もありません。そこが無責任移植のゆえんですが、皆さんはぜひ、そのプロセスを想像してみてください。知識よりも、その想像力の方がずっと大事だと私は思っています。



シモバシラ  
(日本固有種・シソ科)  
「氷の花」

# quiz



ここでクイズです!

- #1 「氷の花」ができる条件で正しいものは？
- ・気温が氷点下の時
  - ・雨や雪が降っていない時
  - ・風が強くない時
- #2 シモバシラ以外で「氷の花」ができる植物は？
- ・ヒキオコシ (シソ科)
  - ・ヤマハッカ (シソ科)
- #3 アサマと名前が付いている植物の中で、浅間山と関係のない植物は？
- Ⓐ アサマヒゴタイ
  - Ⓑ アサマフウロ
  - Ⓒ アサマリンドウ
- #4 カルイザワという名の付いている植物はある？
- Ⓐ カルイザワカラマツ
  - Ⓑ カルイザワツリスゲ
  - Ⓒ カルイザワテンナンショウ
  - Ⓓ カルイザワトウヒレン

### 【答】

#1、#2 共に全て正解

#3 Ⓒ 三重県の朝熊山で発見されたことに由来する。

#4 全部ある。

Ⓐ カルイザワカラマツ (アキカラマツ×ノカラマツの雑種) 馬取山田には、あった。

Ⓑ カルイザワツリスゲ (クジュウツリスゲの別名。リクチュウツリスゲ、ホソバハネスゲとも) 離山で発見された。

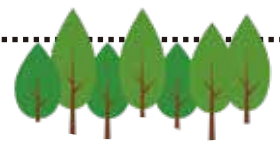
Ⓒ カルイザワテンナンショウ (ヤマトテンナンショウの別名) ヤマトとは別種という説もある。

Ⓓ カルイザワトウヒレン (Saussurea x karuizawensis H.Hara セイタカトウヒレン×キクアザミ 雑種 絶滅) 再発見されたらすばらしいが・・・。

## REPORT

2025 1/10

### ミニ講座 津田智先生の『絶滅危惧種のお話』



絶滅危惧種というとヤンバルクイナ・イリオモテヤマネコなどしか思い浮かばない私が、お話を伺って驚いたことは維管束植物の絶滅危惧種が2163種もあるということでした。

- ・科学的根拠に基づいて細かい分類がされている
- ・環境省が指定したものと地方自治体が指定するものは違う  
(ex. サクラソウ: 長野県: 絶滅危惧種Ⅱ類、環境省: 準絶滅危惧種(NT)、北海道では未指定)
- ・レッドデータブックは約10年ごとの改訂、レッドリストは随時見直しをされているなどを教えていただきました。

軽井沢でもレッドデータブックを作成する予定があるとのことですが作成することが目的ではなく、それをどう活かすか(保護・観察会・講習会など)、次世代にどう伝えていくかが大切だと思いました。

近年、軽井沢での開発が進み、情報不足のままに希少な植物などが消えてしまわないか心配です。また今は当たり前に見られる植物が無くなってしまわないように現状を調べていくことこそが大切ではないか、その中で私にできることは何かと考える良い機会になりました。

[阪本佐和子]

上発地最長老の佐藤輝夫さんは、ご自分の思い出を障子紙の巻物に墨で書かれていらつしやいます。もう10巻にもなる資料を、サ会議のニューズレターに載せていただくことを快諾していただきました。軽井沢に長く住んでいらつしやる方の歴史や思いを知ることが、これからの軽井沢の行く先を考える上で、大切なことだと思えます。

日本の農村風景と云えば米の国、稲作であり米作りは遠く神代の時代から作られていたそうです。我が集落も三十年代までは皆自家用位水田をもち、稲作をしていました。米あまりで中止すると一反歩(300坪)につき7万円ほどの減反補償金が出るので、稲作は少なくなりました。誰が考えても7万円もらう方になります。それで買って食べれば楽ですね？

そもそも米あまりは学校給食が原因です。子供の頃パンで育った人は成人になってもパン食になります。米の使用は少なくなりました。あまりま



す。パンの元、小麦粉は外国産です。輸入品は不作だと単価が上がります。国の自給率は37%が日本の政治家には知る事が出来ないのか不思議です。日本の水田は荒れて、水害になります。政治家は何を考えているのでしょうか。

農薬も変わりました。戦後機械化が進みました。戦争用品を作っていた工場が一せいに農業機械に変わったので、これから書きたいと思う。一通り、米作り、代掻き、田植、田の草取りを二度と見る事がないので思い出して書きま

四月下旬になるとぼつぼつ代掻きが始まる。馬に馬鋤をひかせてお後取と鼻取の共同作業である。どちらが欠けても出来ないし、心がうまく合わないと出来上がらない。ホツカブリ(頬被)をして麦藁帽子をかぶりケツター(蓑)背負う、荒代、中代、植代三回である。鼻取は水が多いと馬の通る道すじがわからず、その点お後取方がよくわかるので、夫婦などですしている場合、良く云いあらそいをしているのを見かけました。植代が終わり、田植で仕上げである。

現在はこうでしょう。

山間地の稲作は無くなり、稲作地は圃場整備されており代掻きはトラクター一面ですごく細くなる。

馬の場合は、前日ですが、トラクターの場合三日くらい前が、田植機に良いとされています。

昭和30年代発地たんぼが県下でも一番早く圃場整備された時、唄うたいの加山雄三が大きなトラクターで私の田で代掻きコマリシャルをとりました。

そんなことがありました。

事務局から

ニュースレター配布方法変更のお願い

このニュースレターは、初期の手書きfax、ワープロ印刷、コロナ感染の蔓延を機に、カラー化と、変身進化(?)してきました。

今号からは、循環経済化を願いDXしようということではなく、郵便料金値上げで、止むを得ず町内会員には郵送しないことにしました。

本当は実物を手にとり読んでいただきたいのですが…。

実物を手に取っていただいた方は、読み終わったからお知り合いにも渡して読んでいただければと思います。よろしく！

